

# 令和4年度 学校マネジメントシート

三重県立水産高等学校

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「かけがえのない海を護り、命を尊び、海の恵みを活用する豊かな人間性を備えた人材を育成する」というスローガンのもと、「学力の定着・向上」「希望進路の実現」「豊かな心の育成」を中心に生徒を育成し、地域と社会から信頼され必要とされる学校
(2)	育みたい児童生徒像	水産・海洋に関する知識・技術の習得を通し、「考え抜く力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を高め、水産・海洋関連分野のリーダーとして活躍できる生徒
	ありたい教職員像	各教職員は、生徒の発達段階に応じたきめ細かな指導を心がけるとともに、授業力向上に向けた自己研鑽に励む。また、相互協力し、積極的にカリキュラムマネジメントに参加する教職員

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 安全・安心な学習環境と理解が深まる授業内容</p> <p>&lt;保護者&gt; 社会人として相応しい自立心の向上と希望する進路の実現</p> <p>&lt;地域&gt; 水産高校として魅力ある取組と地域連携</p>
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	<p>&lt;保護者&gt;丁寧な教育実践と情報共有</p> <p>&lt;中学校&gt;きめ細かい指導と情報発信</p> <p>&lt;地域&gt;マナーの育成と地域との連携</p>
	連携する相手への要望・期待	<p>&lt;保護者&gt;家庭教育の充実・学校教育に対する理解と協力</p> <p>&lt;中学校&gt;綿密な連携と相互理解</p> <p>&lt;地域&gt;教育活動への理解と協力</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p><b>【広報活動】</b></p> <p>コロナ禍で学校見学の機会が減少している時こそ、水産・海洋教育の魅力と必要性について幅広く中学生に伝えていくことが必要なことから、教育活動のみでなく成果・結果等もWEBを活用し随時発信するなど、さらに広報活動を充実させる。</p> <p><b>【授業改善】</b></p> <p>多様な生徒に対し、学習に対する目的意識の向上と興味関心を引き出す授業づくりを重視することで、主体的に授業参画する生徒の割合を更に増やし、基礎学力の定着に繋げる。</p> <p><b>【教育活動全般】</b></p> <p>各学科の専門的な知識・技術の習得や資格取得の向上を図るとともに、地域課題解決型の探究活動やインターンシップ等の実社会と関連する体験活動の充実を図り、社会や仕事と自身の関り方について深く考えさせる。</p>
(4) 現状と課題	教育活動	<p><b>【教育課程の充実、学力の定着と向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水産・海洋関連分野でリーダーとして専門性のある人材を育成するため、ベースとなる基礎学力の定着と水産教育の一層の改善・充実が必要とされている。</li> </ul> <p><b>【教育課程の充実、キャリア教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領、三重の水産業、生徒の現状、地域性などを踏まえた教育課程・系統的なキャリア教育、生徒指導等の効果が最大に発揮されるよう全教職員がカリキュラムマネジメントに積極的に参加する必要がある。</li> </ul> <p><b>【生活指導の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員が丁寧で粘り強い指導を継続し、自立を促すとともに、生徒が主体となる学校行事等の活動を推進する必要がある。</li> </ul> <p><b>【安心・安全な学校づくりの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒が在籍する中、個々の教職員が様々な支援方法について学ぶとともに、チームとして組織的、計画的に支援を進めていく必要がある。</li> </ul>

学校 運営等	<p><b>【円滑な組織運営の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革、安心・安全な学校づくりの視点で教育活動全体を見直し、教職員の共通理解を深め、意識改革を図り、教職員が結束して学校運営に努める必要がある。</li> </ul> <p><b>【指導力向上への取組の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>船舶養成施設として必要となる指導者（教員と船員）の養成に向け計画的に取り組む必要がある。</li> </ul> <p><b>【開かれた学校づくりの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や中学校等が水産教育の魅力を知り、興味関心を一層深めるよう、生徒が主体となる地域課題解決型の探究活動の推進と継続的なPRが必要である。</li> </ul> <p><b>【危機管理の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員個々のコンプライアンス意識の向上や教育上の安全管理に対する未然防止の環境と体制づくりを進めるとともに、事後の対策等に関する研修等を充実していく必要がある。</li> </ul> <p><b>【入学者増に向けた取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>志摩市内中学校卒業生数が今後も減少することから、近鉄沿線の伊勢・松阪地域や中・北勢・牟婁地域、水産学科の設置がない県外からの入学生の増加を図る必要がある。</li> </ul>
-----------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p><b>【キャリア教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習船教育等の特色ある教育活動を通して、専門性に加え、水産資源管理、海洋保全や開発、国際理解等に関する幅広い見識を有し、水産や船舶関連産業分野で活躍できる人材の育成に努める。</li> </ul> <p><b>【学力の定着と向上、人権教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感や自尊感情を高めるため、基礎学力の定着や地域課題解決型探究活動の充実を図るとともに、命を大切に教育を推進し「豊かな心」の育成に努める。</li> </ul> <p><b>【安心・安全な学校づくりの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な学習環境を保障し、信頼しあえる仲間づくりの視点を重視した授業改善や教育活動を推進し、自身で考え行動できる自立した生徒の育成に努める。</li> </ul>
学校運営等	<p><b>【円滑な組織運営の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動に、教職員一人ひとりがやりがいを持って取り組めるように、情報共有や助け合いなどによるチームとしての学校づくりを進める。</li> <li>個々の教職員のワークライフバランスが保てるように働き方や業務の見直しを進め、計画的に業務を遂行し、過重労働の減少、年次有給休暇取得日数の増加、部活動時間の縮減等を図る。</li> </ul> <p><b>【危機管理の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の教職員が日常的にコンプライアンス意識を高く保てるよう、様々な事例に基づいた主体的な研修を推進し、教育活動等に潜む課題の可視化を図り、教職員一丸となり信頼される学校づくりに努める。</li> </ul> <p><b>【開かれた学校づくりの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域にある学校として、専門性を活用した地域との協働活動に取り組み、相互理解を深め、開かれた学校づくりを推進する。</li> </ul> <p><b>【入学者増への取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内唯一の水産専門高校の魅力を発信するとともに、県内遠方や県外から入学を希望する生徒の受入体制の構築に向け、県教委や地元行政と連携した組織作り、受け入れシステムの運用等を推進する。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組、「◎」:最重点取組

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果 (参考:令和3年度末)	備考
1 教育課程の充実	<p>(1) 教育課程の改善や評価手法の研究を進めるとともに、教科や学科を横断した授業づくりに取り組み、授業の質的向上を図るとともに、生徒の変容を評価し、専門的知識・技術の更なる定着に努める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p>		※

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程改善に向け検討会を開催し活性化を図る。(随時)</li> <li>・教科毎に評価手法の研究を進める(年1回)</li> <li>・学習評価に関する研究授業と研究協議を実施(年2回)</li> </ul> <p>※教科・科目を横断した授業研究を継続するとともに、探究活動等における多様な学習成果の評価手法を確立する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活満足度調査(授業内容の理解、地域社会への参画について前年比1割向上)</li> </ul>		
2 学力定着と向上	<p>(1) 授業規律の確立に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の携帯電話の管理、机上の整理について、すべての生徒が適切に実行できるように指導する。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業開始時の習慣・規則の徹底(100%実施)</li> </ul> <p>(2) 習熟度別学習やICTを活用し、多様な生徒に対する個別最適な授業づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員がわかりやすい授業づくりを徹底する。</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習として、ICTの活用等による個別最適な学習の時間を設定する。(随時)</li> <li>・各授業時における導入・振り返りの徹底(100%実施)</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産・海洋系の知識や技術を育成するため、基本的な資格に関する合格率向上(前年比1割向上)</li> <li>・学校生活満足度調査(主体的に学ぶ姿勢について前年比1割向上)</li> <li>・学力診断テストによる変容(前・後期比較による学力向上)</li> </ul>		◎
3 キャリア教育の推進	<p>(1) 個別のキャリアカウンセリングやコーチングによるきめ細かなキャリア教育を行うとともに、学科・コースの持つ専門性の育成に向け、教科横断、コース相互連携、船員と教員の協同を重視したキャリア教育全体計画に沿った地域課題解決型の探究活動等の充実を図る。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した水産関連業界へのインターンシップ等の実施</li> <li>・計画的な外部人材によるキャリア講演会</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する進路先への決定率(100%)</li> <li>・卒業生の早期進路変更率(1割以下)</li> <li>・学校生活満足度調査(地域社会への参画について前年比1割向上)</li> </ul>		※
4 生活指導の充実	<p>(1) 個々の生徒の発達段階に応じたきめ細かな支援に努め、社会人として必要なマナーや規範意識を醸成する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校指導を行い、個々の生徒への声掛けを行う。(玄関、校外での指導、全平常日課日実施)</li> <li>・定期的な身だしなみの指導を行う。(頭髪・服装指導、月1回程度実施)</li> <li>・生徒会が主体となる生徒活動の充実を図る。(随時)</li> </ul>		◎

	<b>【成果指標】</b> ・自己肯定感に関する調査（前年比較）		
5 人権教育の推進	(1) 生徒の自己肯定感を高める取組を進める。 ・個々の生徒の自己理解を促進し、自己有用感を醸成し、仲間づくりを重視した教育活動を推進する。（人権学習のみではなく普通の授業づくりから取り組む。） ・自らの命と共に、他者の命を大切にすることを育成するため多くの機会を通じて生命尊重の教育を推進する。 <b>【活動指標】</b> ・生徒の現状を把握した人権研修会の実施。 ・仲間づくりを意識した授業づくりの実施。 ・命の大切さについて考える講演会等の実施。 <b>【成果指標】</b> ・自己肯定感に関する調査（前年比較）		※
6 安心・安全な学校づくりの推進	(1) 生徒が安心して学べる学校づくりを行うため、いじめの積極的な認知や生徒の抱える課題の早期把握、家庭と連携した生徒支援に努める。 <b>【活動指標】</b> ・個々の生徒の様子について教職員間の情報共有を図り、いじめや課題を抱える生徒の早期発見・早期対応に取り組む。 ・家庭の状況把握と信頼関係構築に努め家庭と連携した生徒支援に取り組む。 ・いじめアンケートの実施と活用。 <b>【成果指標】</b> ・自己肯定感に関する調査（前年比較）		※

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 円滑な組織運営の推進 (働き方改革の推進)	(1) 働き方改革を推進し、学校教育全体の活性化を図る。 <b>【活動指標】</b> ・定時退校日を月1回設ける。（定時退校者90%以上） ・各クラブが週1日以上休養日を設ける。（100%実施） ・会議及び委員会を1時間以内に終了します。（90%実施） ・スクールサポートスタッフの有効活用（面談：月1回） ・組織的な諸課題について分析し改善を図る。（校内活性化会議の開催） (2) 実習船教育の更なる充実・改善に向け、教員と船員の連携強化に向けた組織体制と業務内容の改善に取り組む。 <b>【活動指標】</b> ・実習船教育の改善に向けた検討会の実施（月1回程度） <b>【成果指標】</b> ・時間外在校時間 （1人あたりの月平均在校時間：30時間以下） （年360時間を超える教職員数：0人） （月45時間を超える教職員の延べ人数：0人） ・休暇取得 （一人あたりの年間休暇取得日数：前年度比1日増加）		※

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員の満足度調査（前年比改善割合向上）</li> </ul>		
2 開かれた学校づくりの推進	<p>(1) 地域の専門高校として地域と連携した生徒が主体的に参画する教育活動を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保・幼、小・中学校との交流活動に取り組む。（年6回以上）</li> <li>・ 地域と連携した防災活動に取り組む。（年1回以上）</li> <li>・ 学校関係者評価委員会を実施し提出された改善提案を教育活動の改善につなげる。（年3回）</li> <li>・ 学校活性化協議会を実施し提出された改善提案を教育活動の改善につなげる。（年3回）</li> </ul> <p>(2) 教育活動の情報発信に取り組み県民からの信頼構築に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校への出前講座等による情報発信（市内中学校）</li> <li>・ 各地域主催のイベントに積極的に参加する。（年3回以上）</li> <li>・ 授業公開や学校見学会、施設活用等の実施</li> <li>・ 実習船を活用した職場体験等の実施</li> <li>・ 地域課題解決型の探究活動の実施</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページ等への活動掲載（年100回以上の更新）</li> <li>・ 地域課題解決型の探究活動等の情報提供（20回以上）</li> <li>・ 様子を理解する保護者等の割合（アンケート調査）</li> </ul>		◎
3 指導力向上への取組の推進	<p>(1) 資質向上への取組を計画的に実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急対応、人権教育、特別支援教育、生徒指導、キャリア教育、防災教育、ICT教育、授業改善等に関する校内研修会を開催する。（各1回以上）</li> <li>・ 人権に関する校外での一人一研修への参加により人権感覚を高める。（90%）</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活満足度調査（全体的な満足度の向上）</li> <li>・ 自己肯定感に関する調査（前年比較）</li> <li>・ 生徒対象学校理解調査</li> </ul>		※
4 危機管理の推進	<p>(1) 現実に即した危機管理体制を構築する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危機管理マニュアルの充実及び地域と連携した防災への取組を行う。（地域との連携1回以上）</li> <li>・ 報告・連絡・相談を密に行い、発生事案への早期対応・早期解決に努める。（全職員100%）</li> </ul> <p>(2) 信頼される教職員集団づくりに取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不祥事（体罰等）の未然防止に向けた事例研究や研修を通じて教職員が教育活動を自己点検する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校信頼向上委員会を開催しコンプライアンスの見直しを図る。（各学期1回）</li> <li>・ 教員主催のコンプライアンス研修等（各学期1回）</li> <li>・ 教職員のコンプライアンス・危機管理意識調査（変容分</li> </ul>		※

	析)		
5 入学者増への取組	<p>(1) ホームページ等の活用や中学校訪問を通じて水産高校の専門的な学びと水産・海洋系職業の魅力を発信する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>志摩市外の中学校訪問し、中学校卒業生の状況を伝えるとともに水産高校の学びと高校卒業後の進路について説明する。</li> <li>志摩市と連携し、下宿受け入れ生徒数の拡大を図る。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>志摩市外の在校生の出身中学校への訪問数 (20 校)</li> <li>ホームページ等への活動掲載 (年 100 回以上の更新)</li> <li>地域課題解決型の探究活動等の情報提供 (20 回以上)</li> <li>志摩市外からの入学志願者数 (志願者の 40%以上)</li> </ul>		◎

改善課題

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	
学校運営についての改善策	